

要旨

1. イノベーションを目指す、世界一起業しやすい大学
2. 人材を育成する機関としての大学(コミュニティを大事にした大学の形)

大学改革は大学の社会的、経済的役割を明確にし、その投資についても役割に準じた投資を行うべきだと思います。大学の機能を私は大きく2つに分けました。一つは、創造的破壊を生むイノベーションの種をもつ研究と人材がいる大学。28年度に創設された国立大学の枠組みでいうと、東京大学や、東京藝術大学のような大学は、世界中からトップの人材を獲得し得る魅力をもち、日本でイノベーションが生まれる拠点となるような大学のことです。そして2つ目は現状の産業を支える人材の育成に取り組む教育のための大学です。

1. イノベーションを目指す、世界一起業しやすい大学と国家

まず、イノベーションを生む大学について述べます。その大学に求められることは、イノベーションが起こるような研究が行われ、それを活かして産業が生まれていくことがだと思います。イノベーションの種は、日本でも十分に存在しています。例えば、今注目されている分野はAIですが、この分野は日本の産業がロボットと親和性が高いことから研究者が多く存在していましたが、国際的にビジネス化(300兆円)が見えてきた今日では、そのような人材を各国、特にアメリカや中国などの大学やベンチャー企業がヘッドハンティングをして、日本から流出している状況があります。人材を日本に留まらせ、また優秀な人材を海外からも獲得するためには、大学にしながら起業をしやすい環境、またそれを国として応援していくという目に見える施策が必要だと思います。一方で日本の大学の現状は、自分の研究のためにA教授が集めてきたお金がいったん大学に入ると他の研究室に配分されてしまうとか、また、国立大学の教授は公務員だから、起業ができないというようことが起こっていると聞きます。スタンフォード大学ではグーグル社が学内で起業する際に、その見返りに株主になり、上場益で大学に多大な利益をもたらしたという事実もあります。

私の友人の筑波大学の落合准教授は、研究の成果としてビジネスの立ち上げを考え、資金調達もICOなどの新しい枠組みを模索していますし、私の運営するクラウドファンディングのレディーフォーでも、研究室単位の寄付による外部資金調達が少しずつ実施

されつつありますが、まだ規制などで主流にはなっていません。起業のしやすい環境を作り、産業を生み出す役割を担う機関として役割を果たしてもらいたいです。

2. 人材を育成する機関としての大学(コミュニティを大事にした大学の形)

私が留学していたスタンフォード大学には、CS106A という有名なプログラミングの授業があります。その授業は、大学教授ではなく、教授の研究室の生徒が教壇に立ち、授業のコンテンツとしての質を高めていました。その授業は、今世界中のどこからでもネットでアクセス可能です。最良のコンテンツは、無料でどこからでも受けることができる時代に、大学が先生を集めて、オリジナルの授業コンテンツを作ることは非効率ではないかと思います。また、社会で生きる人材という観点でも、これだけビジネスモデルの持続性が下がっている中で、大学で学んだ内容が社会人になって一貫して役立つということも難しい状況になっていると思います。私は常にロボットにできないことは何だろうという視点で自分の仕事をみています。ディープラーニングが開発された現在では、その分野もだいぶ狭くなったのではと感じています。しかし、ロボット同士が、慶応で言えば三田会のようなコミュニティを作ったという話は聞いたことがありません。コミュニティの創設というのは人間独自の営みなのかもしれません。私は慶応大学で、ベンチャーを立ち上げた恩師との出会い、最初のプロジェクトをやり遂げた同志たち、そして何より大切な旦那様との出会いがありました。大学が提供できる価値の一つはこのコミュニティの提供にあるのではと考えています。人間の絆を結んでいく場の提供です。その視点で考えたときに、提供する内容は、例えば、コミュニティの創設を目的とした地元の企業とのコラボレーションプロジェクトや、起業するときの仲間づくりの拠点など、同じ志をもつ者との出会いの場所という大学の形になっていくのではないかと思います。

最後に、IT 起業を営む経営者としては、現在は圧倒的にウェブ・アプリ・AI などの分野にエンジニアが足りていない状況です。大学の存在価値を見直すことと同時に、現状に足りていない人材を早期に育てるために、高専などの専門学校に対しての支援を厚くすることを求めます。